漢法苞徳塾資料	№. 094
区分	基礎理論
タイトル	**五行循環**
著者	八木素萌
作成日	

季節	五臓	五行	旺	壮	死	囚	休
春	肝	木	木	火	土	金	水
夏	心	火	火	土	金	水	木
長夏	脾	土	土	金	水	木	火
秋	肺	金	金	水	木	火	土
冬	腎	水	水	木	火	土	金

☆季節における五行の循環は『旺・相・死・囚・休』の局面として表現される。
これは五臓の機能の循環でもある。これは背腧穴に、良く現われる。また、邪の五行性の循環の局面でもある。「土用」は立春・立夏・立秋・立冬・の前の 18 日間であり、それぞれに脾は旺気するとみる説も一理がある。しかし、一年の循環においては、この表のような局面が主要なものである。「長夏」は夏土用から立秋までの、「湿熱・湿温」の時気に当たるとされている。

☆「旺」期にある臓は邪を受けにくく、「休」期にある臓は邪を受けやすい。子育てを終えてホッと一息つく所である。そのホッした油断のスキに邪に乗じらる事に例えられる。「休」期にある臓が邪を受けやすいのは、子が親から独立する時には、親に背く形になることが多い。従って、油断している所に心労させられる訳である。これは「子から来る邪」＝「実邪」となっている。つまり「腎に木邪」「肝に火邪」「心に土邪」「脾に金邪」「肺に水邪」の関係が生じやすい。「実邪」を受けやすいと把握されている。

☆「囚」は五行的に見れば「休」の「親」に相当する位置にある。故に、それが「囚」の邪となる場合には、親から来る「虚邪」である。

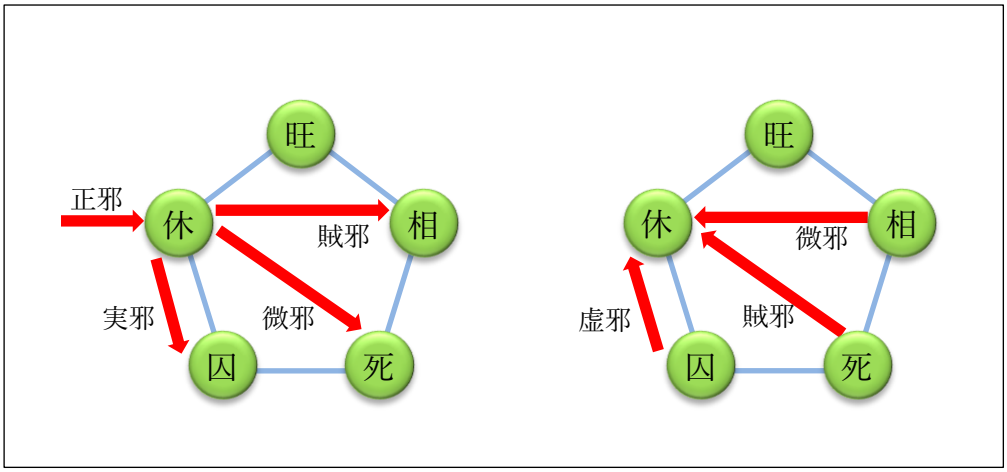
☆「休」にとって「微邪」となるのは、もともと自分が制剋している位置に相当している「死」位の気から冒される場合、つまり五行的には「侮れられ」ているのである。然し、本来は「死」期の気は「旺」期の気から剋制を受けているのであるから、この為に「休」が病になった場合には「旺」気が不十分である事と「休」気がひどく虚している事が判かるのである。

☆「相」期にある臓は、「休」期の気がこの「相」を剋制する「賊邪」の位置にある。しかし、「休」期にある臓が子に背かれて虚になっている事が多いので、その剋制力は弱い。「壮」期は「旺」期に続い

て次の季節（六季）に旺するものであるが「休」期に剋されている関係に位置しているものであり、「休」期は邪を受けやすい状況にあるのであるから、「休」期の臓が邪実になった時には、最も影響される位置でもある事を見落とすことがないように注意深くしておく事が重要である。

☆

「休」→「囚」	子が親の邪となる場合	実邪
「囚」→「休」	親が邪となっている	虚邪
「休」→「死」	己を剋している者に邪となっている場合 《(侮）または（横)》と言う	微邪
「死」→「休」	剋を受けているものから冒されている	賊邪
「休」→「相」	己が剋している者に邪となっている	賊邪
「相」→「休」	己が剋している者に侮られている	微邪
「休」→「休」		正邪



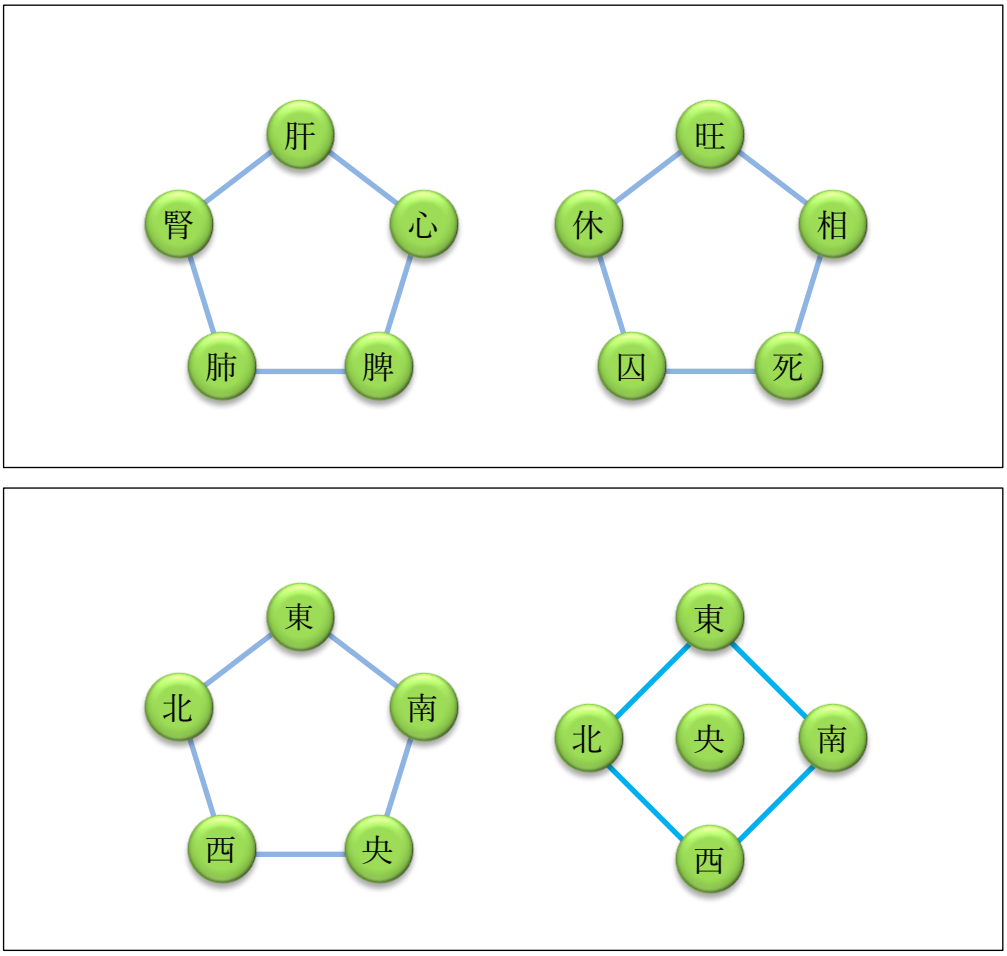
☆「休」→「相」・「休」→「死」・「休」→「囚」・「休」→「休」の場合、邪を受けている臓の背腧穴の反応は他の場合よりもハッキリする。

☆「休」の臓が病んでいて、その状態が他の臓に邪として影響し、その上、影響されている臓を外邪が重ねて冒している場合には、募穴や、手足の反応性が強い穴（兪・絡・自）穴にも明瞭に反応を現わす（外邪の五行性に呼応する経と穴)。

☆『普済方』巻四百十一

「……以五臓配合五行・各有所合的時令・当令者為旺・生旺者為相・克旺者為死・被克者為囚・過令者為休（又称廃)。……旺月有疾可宣泄・相月不宜補養・死月宜補・囚月・休月宜補忌瀉……」

	春	夏	長夏	秋	冬
肝	旺	休	囚	死	相
心	相	旺	休	囚	死
脾	死	相	旺	休	囚
肺	囚	死	相	旺	休
腎	休	囚	死	相	旺



☆『傷寒論巻第二』傷寒例第三より

尺寸俱浮者　太陽受病也　当一二日発　以其脈上連風府　故頭項痛　腰脊強
尺寸俱長者　陽明受病也　当二三日発　以其脈挟鼻絡於目　故身熱目疼鼻乾　不得臥
尺寸俱弦者　少陽受病也　当三四日発　以其脈循脇絡於耳　故胸脇痛而耳聾
　此三経皆受病　未入於府者　可汗而已
尺寸俱沈細者　太陰受病也　当四五日発　以其脈布於胃中絡於嗌故腹満而嗌乾
尺寸俱沈者　少陰受病也　当五六日発　以其脈貫腎絡於肺繋舌本　故口燥舌乾而渇
尺寸俱微緩者　厥陰受病也　当六七日発　以其脈循陰器絡於肝　故煩満而嚢縮
　此三経皆受病　已入於府　可下而已

若両感寒者・一日太陽受之・即与少陰倶病・則頭痛・口乾・煩満而渇　二日陽明受之・即与太陰倶病・則腹満身熱・不欲食讝語。　三日少陽受之・即与厥陰倶病・則耳聾・嚢縮而厥・水漿不入・不知人者・六日死。

若三陰三陽・五蔵六府皆受病・則栄衛不行。・蔵府不通・則死矣。

太陽→陽明→少陽→太陰→少陰→厥陰

太陽→少陽→→太陰→少陰→厥陰

└陽明┘ ……太陰…少陰…厥陰

太陽→少陰→厥陰→少陽→陽明→太陽

太陽→陽明→太陰→

太陽→少陽→厥陰→少陰